

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌北24条校		
○保護者評価実施期間	2025年10月30日 ～ 2025年12月1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年10月30日 ～ 2025年12月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お一人、お一人の様子を共有し活動に取り組む事ができている。 その日の様子を共有し活動を固定化しない様に取り組む事が出来ている。	朝礼や終礼の際に、その日の予定やお子さんの様子を共有し円滑な運営に繋げている。 ヒヤリハットの認識や、共有事項をあたためて事業所として確認し、リスクマネジメントの強化を図っている。	情報共有を継続していき、事業所全体としてお子さんの成長を見守って行けたらと考えています。 ヒヤリハットなどの情報共有をし、リスクマネジメントを事業所として取り組んでゆく。
2	SNSやHPを使った、活動の共有や情報共有を図る事が出来ている。 教室内の掲示物を興味を引いたり、魅力ある物の作成を心掛けている。	輪番制を取り、内容を考え、伝え方をそれぞれのスタッフが考え取り組む事が出来ている。 また、お子さんの成長や達成感を保護者様にお伝え出来るような内容を取り入れ作成している。	事業所全体としての、能力の底上げを図ってゆく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や保護者様同士の交流が薄い。	地域との交流へのご要望をお聞きしなかったので取り組む機会や場がなかった。	ご要望に応じて、地域との交流の機会や保護者様同士の交流の場を設けている。 小集団活動の際には近隣の店舗に出向くなど、交流の機会を設けてゆく。
2			
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌北24条校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 8

回収数 6

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	1				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1		2		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1		3	日が浅いのでわかりません。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1		3		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6					
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌北24条校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		スペースが昨年より広くなり、伸び伸びと活動出来ている。ブースが分かれている事で集中できる環境を作っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		運営の基準を守りながら適切に配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関は段差はあるものの、柵を設け転倒防止に努めている。ブースに目印を設置し、お子さんにとってわかりやすい環境を設定している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		掃除は分担して取り組み、清潔・綺麗な校舎を保っている。玩具を定期的に消毒し、日々の清掃も行っている。活動のスペースが分かれている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こどもがクールダウン出来る環境を用意し、気持ちや情緒に乱れに合わせて適宜使用することができる。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			ニーズに拾い上げを継続していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		運営会議を定期的に開催し、スタッフの意見を出せる場を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			第三者により外部評価を実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に研修が開催されている。外部研修についても推奨されている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		ニーズを踏まえて計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		会議等で共有されている。すぐに関覧できる場所に保管している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ガイドラインに沿って活動を設定している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		会社が提示しているアセスメントツールを使用し、作成している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って活動を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		事前に打ち合わせ活動内容をチームで考えている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動が固定化しない様に、内容を工夫したり、輪番制をとっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別の活動が中心だが、不定期で集団活動も組み合わせながら取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼の際に毎日役割分担を確認する場を設けている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼の際や気づいたことがあった時には、振り返り職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		3営業日以内の記録の作成を心掛けている。都度振り返り、改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月以内に1度見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		モニタリングや計画作成に携わった職員が会議に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			保護者様や関係機関から要望があった際には、連携できる体制は整っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様の要望があった際には、幼稚園に向いたり、幼稚園の先生と情報共有させていただく。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様からの要望があった際には、学校等との情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				地域の児童発達支援センターとの関りは薄く、関係をつないでいく必要がある。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		ご利用者様同士以外の関りの機会が少ない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の活動の中で保護者様にフィードバックの時間を設けその日の様子や今後の課題についてお伝えしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		事業所として開催する事は、今年度はなかった。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に利用料金の件をお伝えしている。また疑問があった際には詳しくお伝えしている。運営規程は提示しており、いつでも閲覧できる状態にしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		お子さん、保護者様の意向を確認しながら作成している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者様にお時間を頂き、説明し署名を頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に面談の機会を設けお話を聞いたり、フィードバックの際に困りごとはないかをお伺いしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		今年は、座談会を実施する事が出来ませんでした。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者様からの苦情が発生した際には、お話を伺い真摯に受け止め、迅速に改善に向けて対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信を発行し、教室内に掲示すると共にHPやSNS等を活用し、お子さんの様子をお伝えしています。イベントのお知らせを行っている	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きのロッカーに保存している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードや言葉以外での意思の伝達ができるツールをお子さんに合わせて取り組んでいる。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		イベントや見学など広く周知している。また行事やイベントごとの時には近隣の店舗に協力を仰いでいる。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		研修・訓練を実施すると共に、マニュアルをファイルに入れ見える場所に保管している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に必要物品や食料の賞味期限を確認して、備えている。また、避難訓練も実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や年度ごと事前に親御さんと確認した中で運営している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	事前に親御さんにアレルギーの有無を確認し、運営している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、定期的に訓練に取り組んでいる。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		連絡手段や避難場所を広く周知し、保護者様に周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を適宜作成し、職員に共有し再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待に関する研修を実施し、虐待の防止に努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する研修を実施し、対応が必要と考えられるお子さんには親御さんに説明し、個別支援計画にも反映している。	